

# 乙 貞

第159号 通巻28巻 第2号  
平成20(2008)年7月1日 発行

守山市立埋蔵文化財センター  
Tel・Fax 077-585-4397

〒524-0212  
守山市服部町2250番地

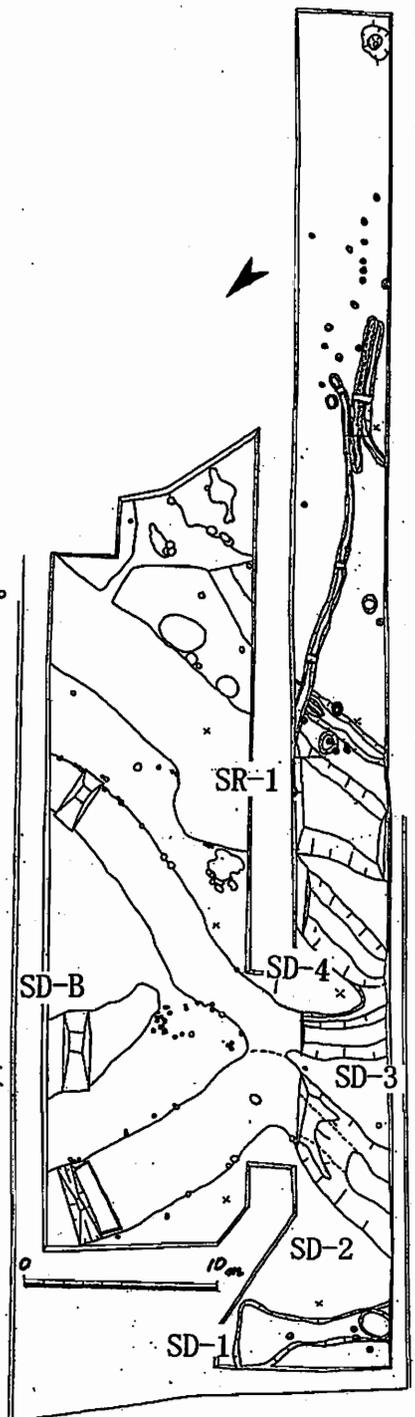
## 発掘調査だより

### 1. 正福寺遺跡発掘調査と正福寺遺跡(下之郷遺跡[65次])確認調査

下之郷町字平田の水田地(2,097㎡)において、民間の宅地造成工事が予定されました。この場所は昨年11月に試掘を実施した際に溝跡や土坑が確認され、また下之郷遺跡の東端部分にあたるため、本発掘調査(造成地内の道路部分)と重要遺跡範囲確認調査(宅地部分)を実施しました。

その結果、大溝や溝が合わせて8条、土坑などが検出されました。検出された溝のうちSD-1は、幅約1mで深さ約30cmと浅いもので、北側で屈曲しています。SD-2は幅約4m、深さ約150cmを測る規模で最深部には植物が分解した有機質の粘質土がたまっていました。この溝は調査区の南端から東に向かって伸び、中央部で屈曲しさらに北へと伸びています。SD-BはSD-2に並行して掘られた溝で、途中で止まっています。幅は約4m、深さは70cm程度のものです。SD-3は幅約3m、深さ約120cmを測る規模で、最深部は一部細砂によって埋もれていました。SD-4は幅約3.5m、深さ約120cmの規模の溝です。その東隣には北東-南西に向けてSR-1が伸びていて、最深部には激しい水流で運ばれた砂や土器が多量に堆積していました。また、このSR-1からは南東に伸びる枝溝(幅約20cm、深さ15cm程度)が確認されています。

今回検出された溝のうち、SD-1、SD-2、SD-4、SD-Bからは弥生時代中期後葉(IV期)の土器が出土していて、この地点から西側に広がる環濠集落に伴う大溝(環濠)と考えられます。また、SD-3、SR-1からは弥生時代後期後半から古墳時代初頭の土器が出土し、この場所を境にして東側には同時期の柱穴や土坑が見つかることから、弥生時代後期後半以降の集落が広がっていることが推定されます。今回の調査地は、正福寺遺跡の範囲にあたる地点ですが、下之郷遺跡に関



▲正福寺遺跡遺構全体図

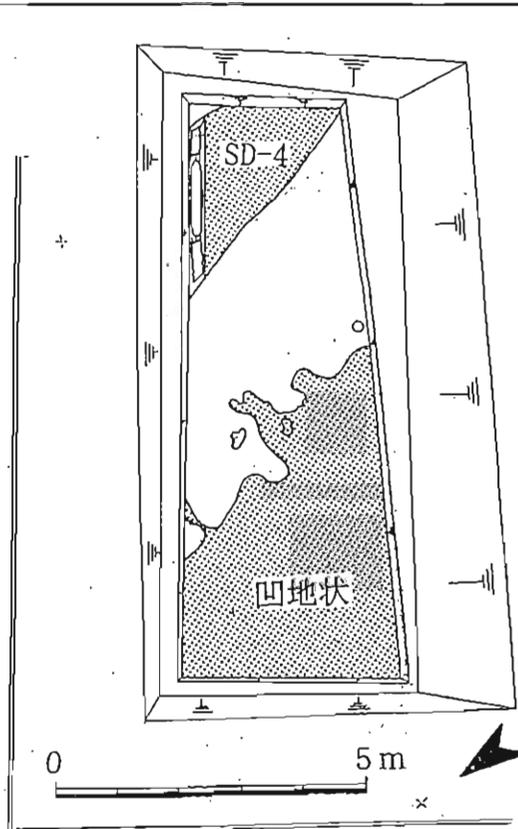
連する大溝が2条以上検出され、これまで考えられていた下之郷遺跡の範囲がさらに東へ広がっていることが判明し、そして集落東側には総数9本以上の大溝（環濠）が掘られていた事がわかりました。

（川畑）

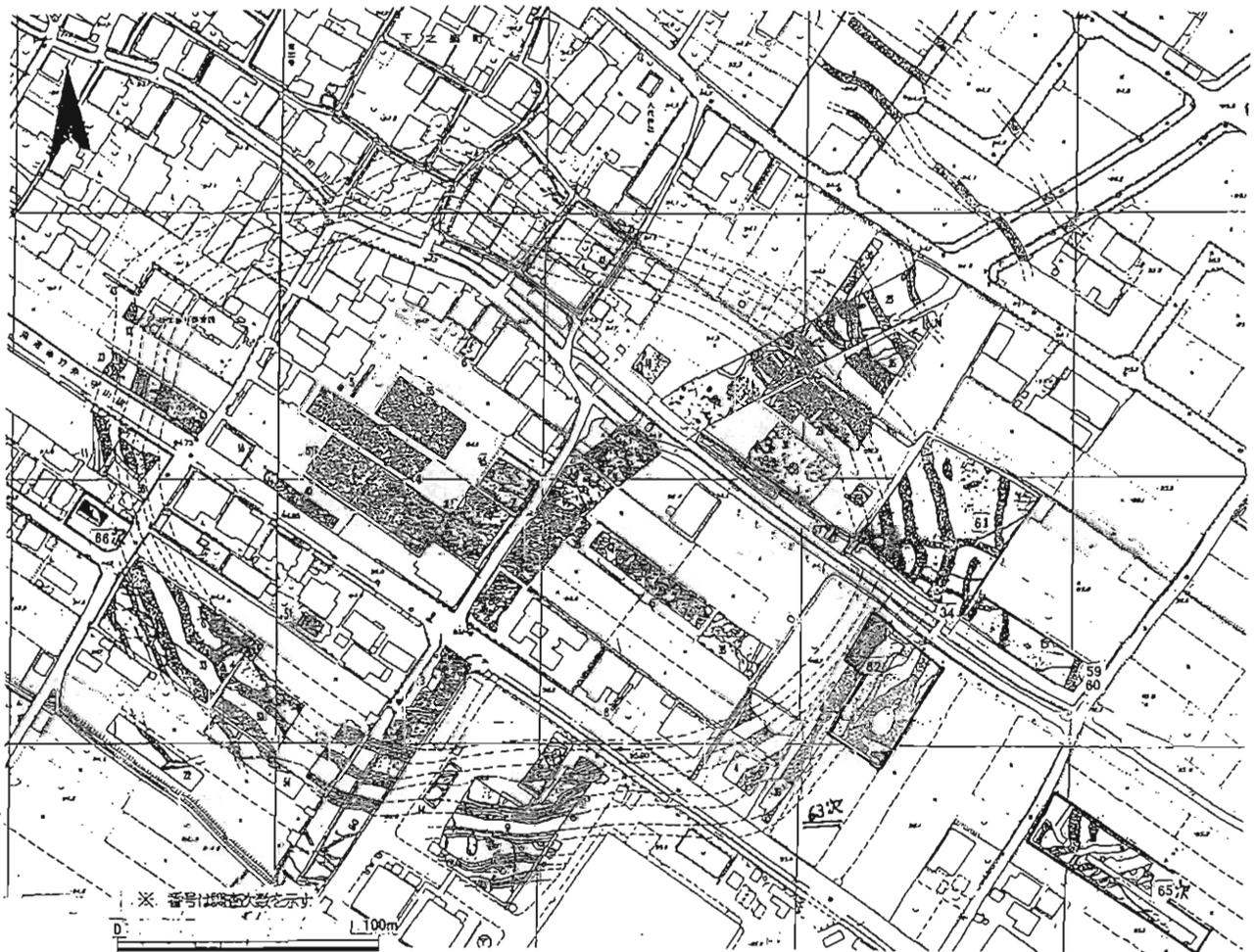
## 2. 下之郷遺跡（66次）確認調査

下之郷遺跡の西端において個人住宅新築工事が予定されたため、事前に確認調査を行いました。その結果、地下約120cm下より弥生時代中期と考えられる溝状遺構（集落内側から4番目の溝）とその外側で凹地状に落ち込む場所を検出しました。今回の調査は、地下遺構の保護、保存を目的に進めたものですが、住宅基礎工法で遺跡が傷まない方法が採択されたため、調査は確認調査にとどめ、完了後は埋め戻し現地保存することとしました。

（川畑）



▲下之郷遺跡 66次調査遺構平面図



▲下之郷遺跡全体図

## 調査中の遺跡から

### 3. 下之郷遺跡(63次)発掘調査

6月中旬より史跡下之郷遺跡において、整備にともなう事前の発掘調査を実施しています。対象地は、今年秋以降に史跡整備を予定している環濠集落の東側縁辺部の約3,000㎡です。今回の調査は、整備に関連して必要な情報を得ることが目的で、環濠の周回位置、規模、深さ、埋没状態、水利条件、周辺の自然環境などを調べる予定です。これまでの確認調査から、当地には3条程の環濠が掘られていることが予測されていますが、今後の調査で、さらに詳細を明らかにしていく予定です。(川畑)

### 4. 吉身北遺跡・赤目遺跡の調査

#### 1. 調査の概要

勝部二丁目字十三地先において、店舗用地造成工事に伴い約1,190㎡を対象に5月21日より発掘調査を実施しています。調査地は周辺と比べてやや小高い土地(微高地)で、北西側は緩やかに傾斜し、南西側は急に落ち込む地形となっており、北側に吉身北遺跡、南側に赤目遺跡が広がっています。

#### 2. 周辺の調査成果

調査地周辺では、これまで二十数次の調査が行われ、様々な成果があがっています。吉身北遺跡では、古墳時代中期から後期にかけての円墳や多数の堅穴住居に加え、玉作り工房等を検出しています。また、赤目遺跡でも古墳時代の溝など多数の遺構を検出していることから、この地域一帯に古墳時代の集落が展開していたことがわかってきています。

この他、今回の調査地に隣接する吉身北遺跡14次調査地点では、中世の柱穴や井戸をはじめ、15～16世紀代にかけての青磁・白磁や信楽焼などが見つかっています。

#### 3. 調査の中間報告

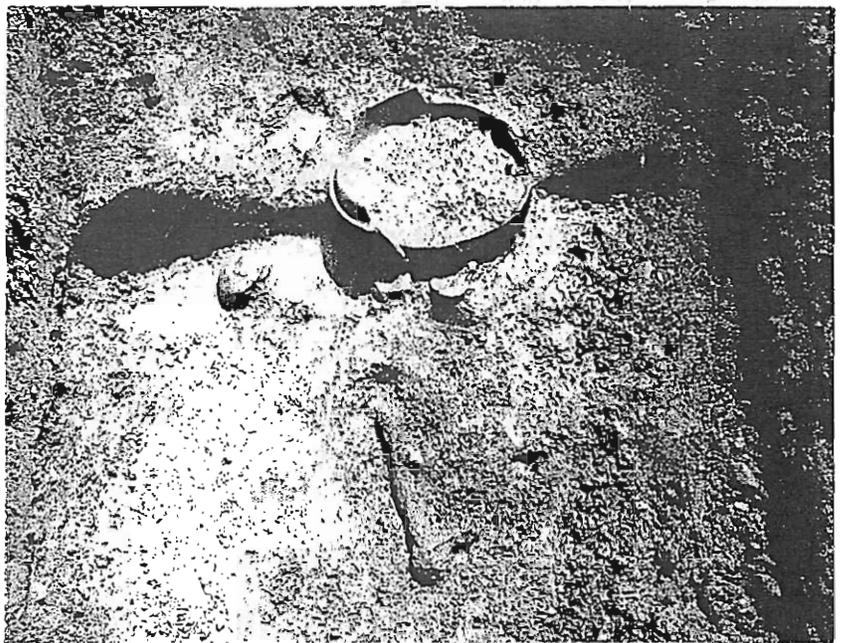
調査は現在約半分の工程が終了したところです。これまでに検出した遺構は大きく古墳時代後期と室町時代に分けられます。古墳時代の遺構は堅穴建物や溝、土坑(大きな穴)などを検出しました。周



▲北東側全景写真

辺一帯に展開した古墳時代集落の一部と考えられます。

室町時代の遺構は5基の大きな土坑や多数の柱穴群を検出しています。検出した土坑は長軸3m以上、短軸2m以上の規模のものがほとんどで、中には土師器皿の完形品（完全な形の土器、または割れていても接合・復元が可能な土器）が複数出土したものや土坑の底部をつき固め、水溜の役割を果たしたことが推測される

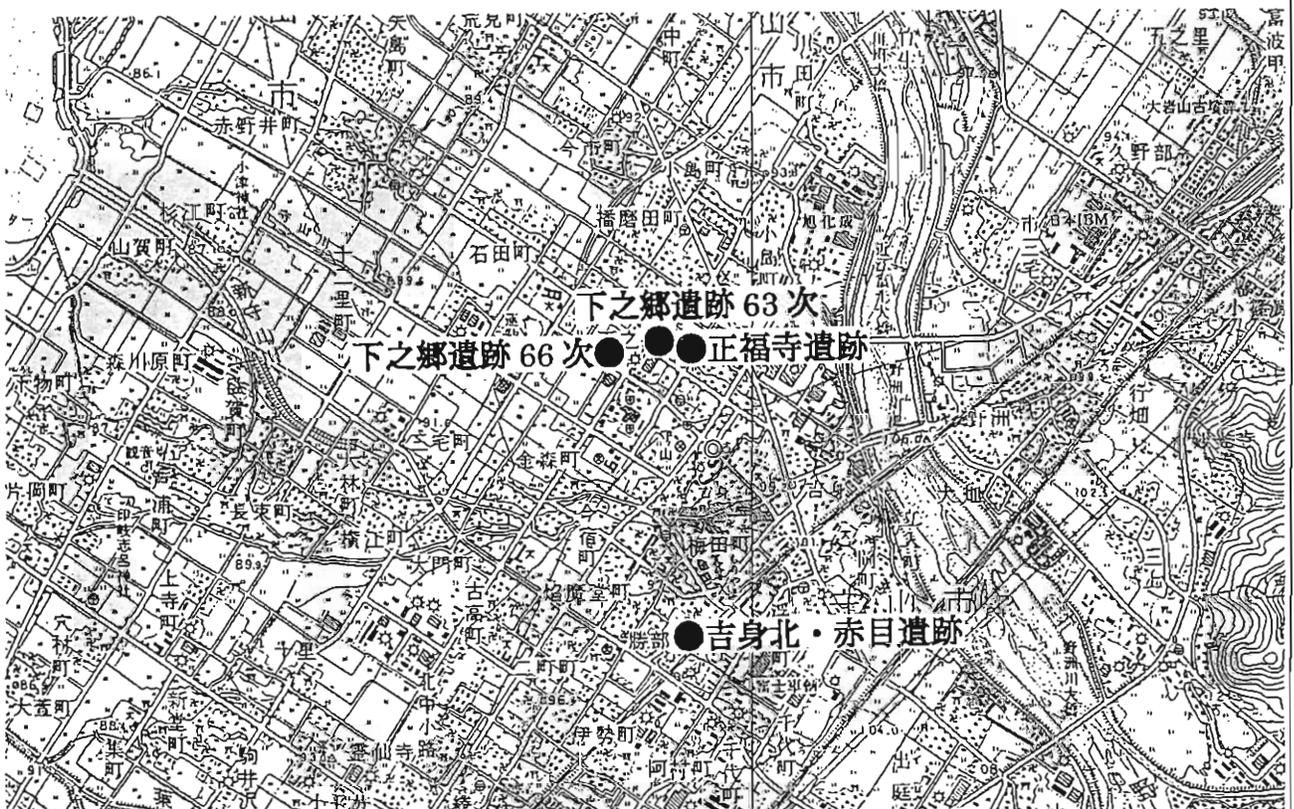


▲室町時代の土坑から出土した土釜と土師器皿

ものもあります。遺物の出土も多く、青磁・白磁の碗や信楽焼の甕・播鉢など種類も多岐にわたっています。隣接地点の調査成果を加えると、15～16世紀にかけて、この一帯に集落があったことが考えられます。

調査は8月上旬まで実施する予定で、今後も新たな発見が期待されます。調査結果の続きについては次号で報告したいと思います。

(木下)



▲調査位置図